

更新講習会・講習内容の確認について

令和 7 年度

登録番号		氏名	
------	--	----	--

次の記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください

1. 【診断と補強について】

- (ア) 診断は大地震によって、損傷する可能性があるかどうかを判定するために行う。
倒壊する可能性があるかどうか判定する為に行う (×)
- (イ) 旧 38 条認定によるプレハブ工法の木造住宅は診断適用外である。
(○)
- (ウ) 開口の有る壁は耐力壁でないため、耐力に算入してはいけない
基準を満足する垂れ壁や腰壁は有開口壁として算入できる (×)
- (エ) 屋根は日本瓦土居葺き、外壁、内壁ともに土壁の住宅を、屋根及び壁が重い
ため「重い建物」として診断を行った。 (×)
「非常に重い建物」として診断を行う
- (オ) 「診断専用」として扱う塗厚 50 mmの土塗り壁を、補強部材として使用してはい
けない。 (○)

2. 【Q&A と判定会からの留意点について】

- (ア) 「掃き出し型開口壁」と「窓型開口壁」が連続（隣接）していたので、一体
の「掃き出し型開口壁」として入力した。 (○)
- (イ) 現地調査の結果、0.60m幅の土壁に筋かい（断面 30 mm×90 mm）が確認された
ので土壁と筋かい両方の耐力を算入した。 (×)
筋かいは壁長 90 cm以上のものしか算入出来ない
- (ウ) 入力に十分な注意を払い書類を作成しているので「自己チェックリスト」の
「自己」チェックを改めてする必要はない。 (×)
チェックリストの作成は必須
- (エ) 調査で土塗り壁(C)に筋かいのたすき掛け(L). (L)を確認したので
同一覧にC L Lと入力した。 (×)
3種類（3文字）以上入力された場合は、先頭の文字と最後の文字を認識
するため、ユーザー欄を使用して入力する

(オ) 外壁・内壁共に土壁だったが屋根が棧瓦に葺き替えてあったので建物重量を「重い建物」として診断した。 (×)

棧瓦・土壁・土壁の組み合わせは「非常に重い建物」

3. 「補強の問題点と注意事項について」

(ア) 耐震補強計画時に、施主に対して、資料を用いての大地震の可能性や、
評点による被害想定は、不安を煽ることになるので控えた。 (×)

耐震改修の重要性の説明は必要

(イ) 耐震補強計画を精密診断法1で行う場合、床下・小屋裏調査の上、基礎伏図・
梁伏図を作成する必要がある。 (○)

(ウ) 土塗壁が連続する短ほぞ差しの中間柱について、N値計算によって引き抜きが
生じない箇所については、金物補強しない場合でも接合部1（低減なし）で計
算しても良い。 (○)

(エ) 準耐力壁による補強は、床から天井までの補強で済み、直下の基礎・土台また、
直上の梁の有無は問わない。 (×)

直下の基礎・土台、直上の梁は必要

(オ) 耐震補強工事において、床解体後、土台に蟻害が確認されたが、補強計画に
特段の記載が無かったことから、工事をそのまま進めた。 (×)

駆除処理をした上で水分対策、予防処理を行う

開始から15分が経過しましたら、司会者から案内がありますので、それに従いお帰
り頂いても結構です。

お忘れ物のないように、気を付けてお帰り下さい。本日は、お疲れ様でした。

※合格が8問以下の方には後日、個別連絡をさせて頂く場合がございます

考査時間内の退出は、お静かにお願いいたします